

週報 第3352回

会 長 川端 徹 副会長 中 透・南出 和成
幹 事 山本 博章 SAA 道正田 均

例会場 ホテルレイクアルスターアルザ泉大津
T E L 0725-20-1121
例会日時 毎週金曜日12:30~13:30

事務局 〒595-0062 泉大津市田中町10-7 泉大津商工会議所3F
TEL.0725-21-9500 FAX.0725-21-9501
メールアドレス info@izumiotsu-rc.org
ホームページ http://izumiotsu-rc.org



泉大津ロータリークラブ
Izumiotsu Rotary Club



今週の例会 (2026年9月25日) 第3352回

■ プログラム

卓話担当 根尾 玲子 会員
卓話講師 忠岡町長 是枝 綾子 様

■ 次週のプログラム

10月2日: クラブフォーラム
川崎 久典 社会奉仕部門担当理事

■ 今後の予定

- ・10月9日: 定款の規定により休会
- ・10月16日: 卓話担当 岡本 笑明 会員

■ 祝 誕生日

西田 佳郎(26日)
小野寺 巧(29日)

■ 今月のロータリーソング

奉仕の理想

今月の歌

赤とんぼ

夕焼小焼の 赤とんぼ
おわれて見たのは いつの日か
夕焼小焼の 赤とんぼ
とまっているよ 竿の先

■ 先週の例会

会長の時間



川端 徹 会長

先週は、3ロータリークラブ合同例会および懇親会にご参加いただき、ありがとうございました。また、朝から開催されました合同ゴルフコンペも天候に恵まれ、ゴルフを通じて親睦を深めることができました。ご参加いただきました皆様に、改めて御礼申し上げます。

今回の合同例会は、和泉南ロータリークラブが発起され、幹事クラブとしてご準備いただきました。当クラブからも親睦活動委員会の皆様にご協力いただき、終始和気あいあいとした、楽しい会になったと思います。来年の開催につきましては、皆様のご意見もお聞きしながら、理事会で検討してまいりたいと考えております。

ゴルフコンペでは、3RC対抗戦としてグロスの平均スコアを競い合い、見事、泉大津ロータリークラブが団体優勝を果たしました。優勝トロフィーとともに優勝賞金1万円をいただきましたので、こちらは「ニコニコ」に入れさせていただきます。

さて、本日の卓話は「GOフェス」についてです。兼光様が代表理事として中心となり、昨年、一般社団法人GOフェスを立ち上げられました。三井様と私にもお声がけいただき、副代表理事として関わらせていただいております。昨年、シーパsparkで第1回GOフェスを開催し、2028年には泉大津フェニクスに1万人を集めて開催することを目標としています。詳細につきましては、この後の卓話でお二人からお話いただきます。

さて、9月は「世界アルツハイマー月間」です。1994年、国際アルツハイマー病協会(ADI)は、世界保健機関(WHO)と共同で、毎年9月21日を「世界アルツハイマーデー」と定めました。現在では9月を「世界アルツハイマー月間」として、世界各地で認知症への理解を深めるさまざまな取り組みが行われています。

日本では、令和6年1月に施行された「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」において、9月21日を「認知症の日」、9月を「認知症月間」と定め、認知症についての関心と正しい理解を深めるための取り組みが全国各地で行われています。「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」(令和5年法律第65号)は、認知症の人を含めた国民一人一人が、その個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会、すなわち「共生社会」の実現を推進することを目的として、令和5年6月に成立し、令和6年6月に施行されました。

認知症当事者である佐藤雅彦氏は、自身の著書『認知症になった私が伝えたいこと』の中で、認知症になってから体験したさまざまな出来事や思いを、当事者の立場から伝えています。また、佐藤氏をはじめとする認知症当事者の方々が、フォーラムやメディアなどを通じて自らの思いを社会に発信し、認知症の人の声を施策に反映するよう求めてきたことは、認知症基本法の成立に向けた大きな流れの一つとなりました。

9月21日の「世界アルツハイマーデー(認知症の日)」には、全国各地のランドマークなどが、認知症支

援のシンボルカラーであるオレンジ色にライトアップされます。大阪府内でも、これまで大阪城や太陽の塔、岸和田城などでライトアップが行われてきました。なお、例会では「今年は大阪城等の予定がないようです」とお話ししましたが、その後確認したところ、今年も大阪城でオレンジライトアップが実施されていたので、ここで訂正させていただきます。

今回のGOフェスも、こうした「共生社会」という考え方と主旨が同じで通じるものがあると思います。認知症の方や障がいのある方も含め、子どもから大人まで、誰もが一緒になって楽しみながらさまざまな活動に参加し、人と人とがつながっていく。GOフェスが目指しているものも、まさにそのようなバリアフリーの共生社会ではないかと考えています。

なお、GOフェスにつきましては、当クラブとして後援するとともに、社会奉仕委員会でご検討いただき、理事会の承認を経て3万円の協賛を行うことが決定しております。

本日の卓話を通じて、GOフェスの活動について、皆様にもより深く知っていただければと思います。



幹事報告

山本 博章 幹事

なし

委員会報告

本日例会終了後、みやびの間にて委員会ございますので、委員会の方はご出席のほどよろしくお願い致します。

(西端 政博 親睦活動委員長)

■ ビジター

なし

■ 出席報告 会員数39名 出席免除0名

月日	出席数	欠席	補充	出席率
9/18	32名	7名	—	82.05%
9/ 4	32名	7名	4名	92.31%

■ メークアップ

榎本(9/10 ワールド大阪ロータリーEクラブ)

細川(9/4 理事役員会)

泉谷、小野寺(8/21 親睦活動委員会)

■ ニコニコ箱

- ・3RC合同親睦ゴルフ大会団体戦 優勝
- ・兼光様、三井様、本日は例会にお越しいただきありがとうございます。宜しくお願いいたします(川端)
- ・兼光様、三井様、本日の卓話よろしくお願い致します(山本)
- ・本日は兼光様、三井様、卓話のほうよろしくお願い致します(道正田)
- ・一般社団法人GOフェス 代表理事 兼光信也様、本日は宜しくお願い致します(西田)
- ・3クラブ合同ゴルフコンペ、和泉南の皆様、段取りありがとうございました。おかげ様でオープンコンペ2位で賞品いただきました。兼光様、三井様、本日の卓話よろしくお願い致します(川崎)
- ・先々週欠席のお詫び。急な欠席となり昼食を無駄にして申し訳ありません(細川)
- ・合同例会欠席のお詫びです(根尾)

ニコニコ箱合計	45,000円
累計	181,000円

先週のプログラム

一般社団法人 GOフェス



卓話講師 一般社団法人 GO フェス

代表理事 兼光 信也 様(写真右)

副代表理事 三井 孝夫 様(写真左)

【代表理事 兼光 信也 様】

本日は「GOフェスにかける想い」についてお話しします。私は理学療法士として、医療・在宅の現場で10年間経験してきました。その中で感じたのが、「リハビリが必要になる前に防げないか(健幸)、リハビリ後に障害のネガティブイメージをなくせないか(共生)」ということでした。この健幸共生を普及することで「みんながワクワクする社会」を創ることが出来ないかと思いました。

そこで始めたのがGOフェスです。健康チェックや運動、スポーツだけでなく、合理的配慮を通して当事者との接点を作ることや医療・高齢・障害の分野をつなぎ、お互いを知るきっかけをつくります。そして福祉から地域の方々に知ってもらい地域を変えることができないかと考えています。

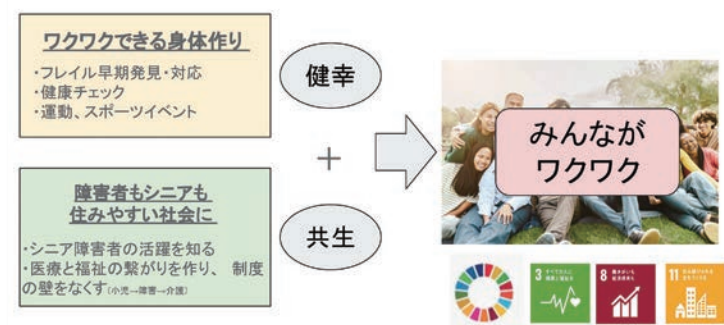
2028年には、1万人が集まるフェスへ。GOフェスを通じて、泉大津からそんな社会をみんなで創っていきたいと思っています。今後とも応援の程よろしくお願い致します。

1



2

健幸＋共生 → みんながワクワクする社会へ



4



3

フェスが共生健幸を深めていく仕組み(横の繋がり)



5

3年後まで



【副代表理事 三井 孝夫 様】

NPO法人自立生活センター・リアライズ理事長の三井孝夫と申します。一般社団法人GOフェスでは、泉大津ロータリークラブ会長の川端先生とともに僭越ながら副代表を務めさせていただき、私は泉大津をはじめ全国の障害のある人たちの想いとGOフェスをつなぐ役割を担っています。

自立生活センター・リアライズは、「障害のある人もない人も仲間と夢を語れる泉州の実現」を目指し、私の故郷である泉大津を中心に、障害のある人の地域生活と社会参画を進めています。24時間の介助派遣、生活介護、相談支援などの障害福祉サービスに加え、本人が自らの人生を選び、地域で暮らしていくための自立生活支援、国や自治体との協議による権利擁護、企業・団体・教育機関での講演、地域とつながりながらバリアフリーを進める「泉大津TRY」、市内全小中学校での人権学習などにも取り組んでいます。

私たちが大切にしているのは、障害のある人が「支援される側」とどまらず、地域をつくる一員として役割を担うことです。その活動の基盤にあるのが「社会モデル」「人権モデル」という考え方です。例えば、車椅子を

利用する人が建物に入れないとき、課題は歩けないことだけではなく、段差しかない環境にもあります。

そこで重要になるのが「合理的配慮」と「環境整備」です。本人との対話を通じて、設備、情報、ルール、コミュニケーションなどを調整し、誰もが参加できる環境をともにつくっていく。その実践の一つがGOフェスです。

GOフェスでは、障害、こども、高齢、医療、企業、地域住民など、これまで別々の分野で活動してきた人たちがつながり、「健幸と共生」をとともに考えます。私自身、川端先生をはじめ、地域のさまざまな立場の方々と活動する中で、分野を越えて出会い、互いの経験や価値観を知ることが、地域を変える大きな力になると感じています。障害のある人だけのために特別な場所をつくるのではなく、最初から多様な人が参加し、それぞれが役割を持てる地域をつくること。GOフェスを一つのきっかけとして、ロータリークラブの皆さまとも地域の未来をとともに考え、新しいつながりを広げていければと思っています。



個人モデル=これまでの障害観

もっとリハビリを！ 努力が足りない！
手術すれば歩けるはず！
本人の体に障害があるから、
訓練や手術をして、
歩けるように頑張るって！
自己責任論に。
がんばり続ける？ 諦める？
人生かけて決めるしかない。

人権モデル=世界の基準

スポーツをみんなのものに
ともに、未来へ

人権モデルは、“障害のある人を変える”
発想ではない
社会の責任で、権利を実現する

- ありのままに尊重される
- 情報・移動・観戦・参加の機会を保障する
- 排除ではなく、共にあることを前提に考える
- 新国立競技場のサイトライン確保は、アクセシビリティではなく“人権保障”でもある

見えること、参加できること、楽しめることを当たり前

社会モデル=現在の日本基準

みんなで作る、暮らしやすい社会へ

意識や社会にある障害(障壁)によって、
何らかの不利を与え続けられている人
(=障害者)

障害をなくす=社会を変える

歩けない人も、ベビーカー利用者も
高齢の方でも、荷物が多い人も…OK!!

合理的配慮・環境整備

スタジアムにみる車いす席の比較

スポーツをみんなのものへ

アメリカ (ニューヨーク)	日本 (兵庫県・西宮市)
ヤンキースタジアム	阪神甲子園球場
総収容人数 46,537人	総収容人数 47,359人
車いす席 506席	車いす席 35席
506 / 46,537 約 1.09%	35 / 47,359 約 0.07%
現行数の開始年 2009年 (新球場開場時)	現行数の開始年 2020年 (11都道府県のアスレチック大会を境に、現在の基準へ)

車いす席の割合 ヤンキースタジアム: 約 1.09% / 甲子園: 約 0.07%

ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基盤として奉仕の理想を奨励し、これを育むことにある。

具体的には、次の各項を奨励することにある。

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること。
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること。
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

四つのテスト

= 言動はこれに照らしてから =

- 1. 真実かどうか
- 2. みんなに公平か
- 3. 好意と友情を深めるか
- 4. みんなのためになるかどうか